新聞
（第3種郵便物認可）

「アースデイ」地球環境考えて

県内各地で啓発イベント

世界中で地球環境を考える「アースデイ」の二十二日、県内各地で啓発イベントや清掃活動が開催された。アースデイは、環境汚染などが進む地球を見つめ直そうと昭和四十五年にアメリカで始まり、世界に広がった市民運動。約百八十五の国や地域で統一行動が行われている。

奈良公園で発電体験

参加団体の活動紹介も

奈良市登大路町の奈良公園登大路園地では「アースデイ奈良2007」（奈良新聞社など後援）が開催され、音楽や劇を通じて環境や平和の大切さを訴えるグループのステージイベントや、フェアトレード商品やエコグッズなどの販売が行われた。また同市登大路町の県文化会館多目的室で参加団体の活動を紹介する展示や地球環境がテーマのビデオの上映が行われた。

奈良ガイア村、特定非営利活動法人奈良ストップ温暖化の会など地球環境や平和、人権などを考える県内の九つの団体・グループで構成する実行委員会が主催。平成十六年から平城宮跡で始め、ことし初めて奈良公園で催した。

奈良ストップ温暖化の会は、自転車発電、風力発電の体験コーナーを設置。参加者は自転車をこいで二十ワット百ボルトの電球点灯にチャレンジし、隣では小さなプロペラをうちわで回転させ、風力発電によるLEDランプ点灯を体験。木津川市から訪れた小学四年北沢秋華さんは「風で発電する体験は初めて。すごいなあと思った」と話していた。

実行委員長の田北ますみ・奈良ガイア村代表は「アースデイという言葉をもっと広め、盛大なイベントに発展させたい。地球のことを考えずに人類は存在できない。毎日がアースデイになることがわたしたちの目的。今さえ良ければではなく、みなが互いのことを考えられる社会に」と話していた。

自転車発電に挑戦する参加者＝22日、奈良市登大路町の奈良公園登大路園地

原

平和と保全、歌に込め

30団体参加、物品販売も

橿

世界的な市民運動で、地球のことを考える日「アースデイ」に合わせ、「アースデイならSouth（サウス）」（実行委員長・伊藤満NPOほっとねっと代表）が二十二日、橿原市北八木町の県立橿原文化会館前広場で行われた。

中南和地域での開催は今年で二回目。橿原、桜井、大和高田各市を中心に、環境保護や人権、教育などに取り組む団体やアマチュアバンドら約三十団体が参加。活動内容を紹介する展示や物品販売、音楽などを通して、地球のことを考える人々が交流、一般市民にもアピールした。流木アートや地球への手紙を書くコーナーもあった。

産業廃棄物問題から始まり、菜の花プロジェクトも展開している桜井市の市民団体「桜井市の環境をまもる会」は、会員が作った農作物などを販売しながら活動を紹介。会員の岡松洋さん（六三）は「多くの人に問題を知ってもらい、世論を高めて市民の監視の目を強くしていきたい」と話していた。

大阪府内の私立高校コーラス部卒業生のグループ「888（はちみつ）」はステージ参加でさわやかなハーモニーを響かせた。田原本町の陶山翠さん（一一）は「いつも笑っていられる平和な世界であってほしい。これからも歌を通していろいろなことにかかわっていきたい」と話していた。

アースデイのイベントに参加して歌声を響かせる女性コーラスグループ＝22日、橿原市北八木町

桜井で焼け住

二十一日ろ、桜井市建ての瀬村東直さん（居間と台所一部と台所焼いたが、により消の火事で、ら腹部にかい、同市の送された。

桜井署のパートは一れ四室ずつは一階西端

奈良市社会福祉法人中川社会福祉法人中川事長）が進めている護施設「なかがわ害者通所施なかがわ」員の奥野信藤原昭奈良社の甘利治来賓が出席開所式が行中川会は「障害があたわが子を